

の供給の問題、ボランティア活動を支える官の力、情報のちがい、対応のスピードの問題、ボランティア活動の日常の組織化のこと等、ボランティア助成法の成立を切に望むものであり、役所の垣根をとった姿勢が必要、特に緊急時に活動出来るよう望む。今後のロータリアンは特にボランティアの活動に関心を高めるべきと思う。

臨時理事会

開催日時 平成7年2月21日 11:30～12:25

開催場所 三条ロイヤルホテル

出席者 大野新吉 米山忠俊 羽賀一夫 丸山誠一 山本 賢 斎藤 正 木宮 隆
稲田憲治 オブザーバー 馬場直次郎

- 議 事 1、阪神・淡路大震災義援金の件 第2560地区では五千万円を目標としている
3/7の例会日に震災の援助についてテーブルトーク
2、3/7の夫人同伴パーティーを4/25に変更
3、3/21 例会訂正の件 春分の日につき例会はありません。
4、稚魚放流事業 夜は勉強会兼花見の宴

会員増強のしおり：

・ある地区ガバナーはかつて次のように述べたことがあります。「私の地区のクラブの半数は10年たつとどうなるのだろうか、と考えると恐ろしくなります。なぜなら若い会員がほとんどいないからです。活力にあふれる活動したいと希望している若い会員が少ないため、社会奉仕活動のほとんどを募金プロジェクトに限定しています。その結果評判を落とし、「老人クラブ」というイメージを作ってしまった」…私達のクラブも注意すべきではないでしょうか？

四つのテスト

— 言行はこれに照らしてから —

- | | |
|------------|------------------|
| I 真実かどうか | III 好意と友情を深めるか |
| II みんなに公平か | IV みんなのためになるかどうか |

2月28日例会： 10周年準備委員会 丸山誠一

3月7日例会： 阪神・淡路大震災についてテーブル・トーク



三条北ロータリークラブ週報

友達になろう

BE A FRIEND

国際ロータリー会長 ビル・ハントレー 第2560地区ガバナー 大島精次

例会日
1995. 2 . 21
累計 No 403
当年 No 32

会長／大野新吉

幹事／米山忠俊

SAA／馬場直次郎

例会日／火曜日 PM12:30～1:30

例会場／三条ロイヤルホテル ☎34-8111

事務局／三条市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160
FAX ☎33-8972

行 事： 世界理解推進月間に因んで

卓話「ロータリーとボランティア」国際奉仕委員会 中條耕二副委員長

出 席： 本日の出席 53名中43名

先週の出席率 52名中45名 86.54%（前年同期91.07%）

先週のメークアップ： 2月15日 三条RCへ 外山晴一さん 本間建雄美さん 山上茂夫さん

16日 会長会議（新潟）へ 大野新吉さん

20日 三条南RCへ 中條耕二さん 山口龍二さん 江口 悟さん

ビジター： 三条RCより 林 光輝さん 五十嵐昭一さん 清水良一さん 長谷川有美さん
加藤紋次郎さん

三条南RCより 吉田秀治さん 永桶栄資さん 小玉良彦さん 西巻克郎さん

会長挨拶： 大野新吉

先週14日の例会日は月ヶ丘養護学校で特殊学級児童の卒業と進級を祝う会に出席させて頂きました。当クラブの例会は味方エレクトにお願いして身障生徒が設備の整った校舎で理解ある先生のご指導のもとで屈託なくのびのびと教育を受け卒業、進級する、それを見送る在校生、共に喜び合う父兄そしてお祝いする先生方、県警音楽隊の方々の吹奏、社会の弱話へのいたわりの心がおたがいに通い合う素晴らしい体験をさせて致しました。留守を預かって致した味方エレクトにも大変すばらしいバレンタインの贈り物を天より授かったとか。大変お目度うございました。又16日は新潟グランドホテルにて県会長会議が緊急に招集されました。その議題は当然の事阪神大震災の救援活動を第2560地区として何が出来るか又、しなければならないかをテーマに全会長の出席で開かれました。

大島ガバナーが公式訪問や折あるごとに話されていました関東大震災において、かつて各国より受けた援助の数々を先週ガバナー事務局より各クラブに送られた1993年5月東京西ロータリークラブ1992～3の国際奉仕委員会、世界社会奉仕委員会の発刊「日本ロータリーの原月景を辿る」より

抜粋全会長に紹介、各クラブに援助の再要請がありました。その内容を一部紹介します。関東大震災において各国より実に当時の金で2211万円、現在の金額に置きかえると340億円もの巨額の義援金我が国に寄せられました。米国はもとよりイギリス、オランダ、ベルギー、フランス、スイス、スウェーデン、イタリア、ペルー、メキシコ、ボリビア、ラトビア、チリなど30ヶ国を越える国々より金銭、物資の援助がありました。その中に特に目を引くのは米国が236億円、イギリス55億円、そして次に多かったのは思いがけない支那（現在の中国）より「支那はよし隣邦交誼の国というも、兵乱収まらざる幾年来、未だ一日も泰平ならず而も挙って同情あり。133万7千円（換算20億6千万円）の巨額を我れに寄せしは」と「大正震災誌」に記されてあります。金銭、物資の援助のみならず、フランス及びイタリアの如きは、日本国民の不幸に対し国民的表弔日を定め、当日は半旗を掲げ、歌舞音曲を停止したり、スウェーデン、ポーランドでは祈祷会を催している。アメリカでは9月2日は日曜日であったが東部地区では休日出動してその賃金を義援金に充てたり、ニューヨークの救世軍では「日本を救え」と大声で呼びつつ桜の造花を通行人に売り、それを胸にかざした人が街に満ち溢れたという。今日では考えられぬ行為を行って憂慮を表しており、当時と比較すると今日の世界中の人々が如何に荒廃しているかがうかがわせる……

猛火の余じんなお立ちこもる9月4日東京ロータリークラブにR I 会長及び幹事から“R I 及び全R C を代表して深甚なる同情の意を表す。なんでも手伝うことがあれば幸いです。”の電文を受け取りました。“DEEPEST SYMPATHY ROTARY INTERNATIONAL AND ALL ROTARY-CLUBS. IS THERE ANY PATICULAR THING WE CAN DO”

これは当時の電信技術と各国の時差を考えると即日の対応といえよう。翌5日には救援計画中の書面に続いてR I としての救援費として取り敢えず2万5千\$贈る旨伝達があった。世界中のR C は自国の赤十字やその他の機関が行っている救援活動に満足できず、R I を通じて或いは直接東京R C に寄付を申し出その数は503クラブ、総額89,000\$に達した。以上は“日本ロータリーの原風景を辿る”より抜粋させて致しました。この頃の全世界のロータリークラブは1493クラブ、全世界のロータリアンは88,700人でございます。現在日本でのクラブ数は2141クラブ、会員は128,300人位に達しております。その数少ない中でいかに巨額の援助だったかがうかがわれます。2月13日現在のロータリアンより被災地に寄せられた額は317,963,000円、当2560地区は先にご案内した通り各会員の協力と地区資金の一時立て替え分で1,500万円を、1月31日に送っております。ちなみに第2560地区の会員群馬ブロック2738名、新潟ブロック2821名、計5559名で当地区より5000万円程度の支援を息永く続けてゆきたい。

第2560地区として地震発生と同時に何をすべきか考えました。第一に現地がどうなっているのか、その実情の視察が一番と考え、地区社会奉仕委員長の木島氏とロータリー地区ボランティア委員長の高井氏の両氏を現地に派遣され神戸、灘地区の災害対策本部長高井氏宅に苦労の末到着、実情の視察と現況報告を目、聞でその激震状況を生々しく体験して大島ガバナーはもとより、今回の

山口龍二君

中條耕二君 最後の米山奨学金となり、3年間でようやく達成させていただきました

淵岡茂君 長男小学校入学を記念して

卓 話：「ロータリーとボランティア」国際奉仕委員会 中條耕二副委員長



2月是世界理解月間であり、R C 創立記念日であります。2月23日は世界理解と平和の日でもあります。

R C はシカゴで1905年に誕生し、90年を迎えました。

弁護士のポールハリスが明治38年に鉱山技師のガスター、洋服仕立屋のハイラム、石炭商のシルベスターの4人が集ってつくったといわれています。ポールハリスは翌日、印刷屋のハリ、不動産屋のウィリアムをさそい6名となった。

会長に石炭商のシルベスターがなり、不動産屋のウィリアムが就いた。

1905年3月21日最初の例会日、会長、幹事、記録係、会計と4つの役で発足しました。ボランティアの精神を基本とし会員が平等、一業一人制をとった。

日本のロータリークラブは初代会長米山梅吉氏、幹事福島喜三次氏、24名のチャーターメンバーで大正10年発足した。

日本も長い封建鎖国の時代から明治維新を経て大正デモクラシーと言われても旧態依然としており、ロータリークラブの組織運営を理解し、受け入れるのは容易ではなかったと言われる。

1923年、大正12年9月1日、午前11時58分、関東大震災が起き、東京、横浜が壊滅状態と化した。

死者約9万人、行方不明4万20人、罹災者340万人、全焼家屋45万戸、倒壊家屋24万戸の大損害であった。

シカゴ本部始め、世界中から義援金や援助物資が届けられた。

この時、東京ロータリークラブは東京孤児院に新築一棟をおくり、ロータリホームと名付けた。

新築開館式は1924年、大正13年10月23日、家族同伴でセレモニーが挙行され、大きな社会奉仕、ボランティア活動として大いに評価された。

この機会に三条北クラブの設立については三条クラブに席をおいた梨本君と私が栄町につくる様命令されたが、期日に間わず、急拠三条に3番目のクラブとして昭和61年12月12日、創立総会の運びとなり現在に至っている。

阪神大震災についての北クラブの対応は新年会を返上しての義援金、大野会長始め米山幹事、役員のご英断に心から敬意を表したいと思っています。

今回の大震災の民間活力のボランティアは今後大きな教訓を残した。例えば緊急医療の医師と薬